

富士信仰の多様な姿

伊勢の農村の祭り

南伊勢町切原の浅間大祭は、隣接する五ヶ所浦に立つ浅間山の山開きの祭礼です。山地が海に迫る熊野灘沿岸の山がちな地域の中で、切原は比較的耕地に恵まれています。

この祭りのために浅間山へ参詣する男たちは、祭の前の二週間、村内を流れる川で水垢離を行います。彼らは「ヨーヨー」のかけ声とともに首まで水に浸かり、身体の汚れを取り去ります。

祭りの前夜、村民は夜通し一緒に富士参りの道中歌を歌いながら餅をついて過ごします。農村で一般的な「餅つき」と呼ばれる集団での餅づくりは、浅間大社祭が切原の稲作の伝統と強く結びついていることを示しています。

祭り当日、男たちは道中歌を歌いながら4本の竹で作られた棒を担いで浅間山に登ります。これらの「大幣」二本と「小幣」二本は、どれも紙垂という白い紙の垂れ飾りがつけられています。山の中腹で二本の小幣を立てると、履物を脱いでから二本の大幣を山頂まで運びます。山頂では大幣を立て、経典や真言を唱えて浅間神を浅間山に正式に迎え、豊穰や村内の平安を祈ります。